

施工説明書

シロアリ返し付き断熱気密パッキン

KDP-105-125-L12 / KDP-105-125SI / KDP-105-125SD

この度は、本製品をお買い求めいただき誠にありがとうございます。

正しく取り付けいただくために、また製品の性能・品質・安全性を確保するために、この施工説明書をよくお読みいただき施工してください。

安全上のご注意 必ずお守りください。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

●表示内容と記号の意味は、次のようになっています。

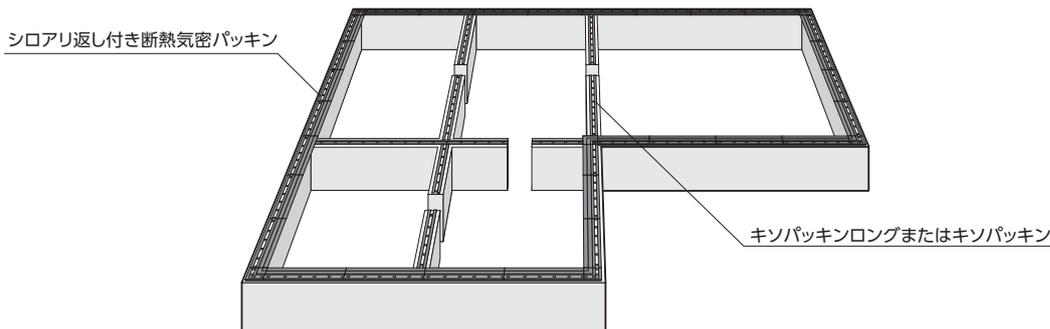
⚠ 注意

⊘	この記号は、禁止の行為を示しています。
!	この記号は、必ず実行していただく「指示」内容を示しています。
⊘	本製品に対して 加熱や不要な打撃を加えない でください。

施工についてお願い

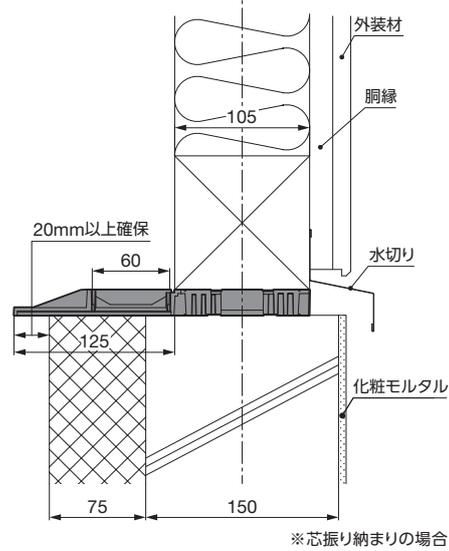
本工法はシロアリ被害を完全に防止するものではなく、シロアリ被害のリスクを軽減するためのものです。
弊社規定の施工要件を満たし、万が一シロアリ被害が発生した場合は弊社規定の内容に基づいて保証いたします。

!	本製品は基礎断熱工法の基礎外周に対して気密材が連続してつながるように敷き込んでください。
	本製品は土台105角、土台120角、土台404角(204)に使用してください。
	本体に加工を施す場合は、長さ調節の切断とアンカーつなぎのカット、T字・十字の欠き込みのみとします。 但し、アンカーつなぎが2つ以上確保される長さで切断してください。
	コーナーパーツAに加工を施す場合は、アンカーつなぎのカットのみとします。
	基礎天端が水平(平滑)に仕上がっているかを確認してください(高低差3mm以内)。 ※基礎天端の不陸が大きいとシロアリの侵入・気密不良の原因となります。
	本製品は基礎断熱工法の基礎外周に使用していただき、床下全域の換気流の動きと木部腐朽防止のため、内周にはキソパッキンロングまたはキソパッキンを使用してください。
	土台設置後、本製品と土台との間に隙間が生じる箇所には必ず専用の調整板(別売品)を使用してください。
	本製品に付いている気密材および断熱材は、はがさずに使用してください。
	梱包から取り出した状態では、気密材が破損しやすいので、取り扱いには十分ご注意ください。
本製品には、表裏があります。Jotoロゴ側を表向きにして敷き込んでください。	

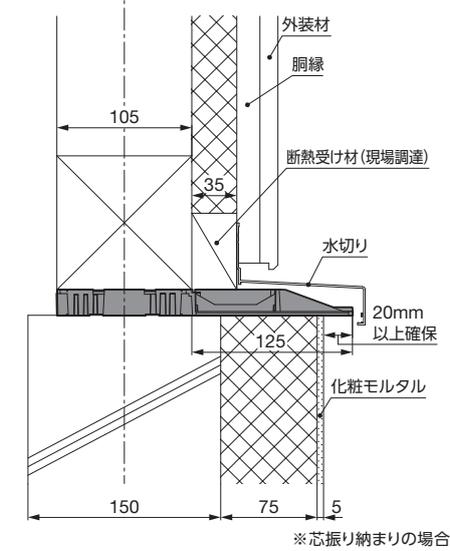


納まり参考図

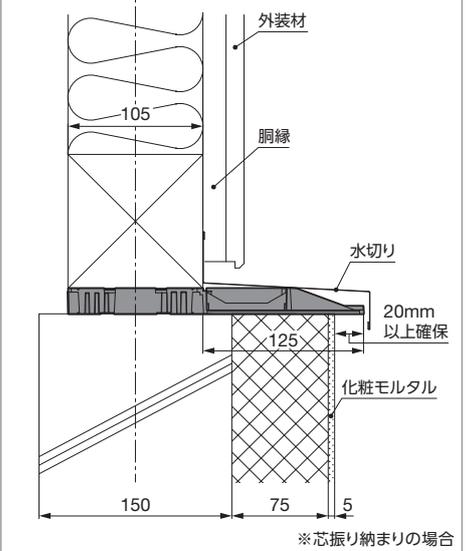
基礎内張断熱納まり図(土台105角, 壁充填断熱)



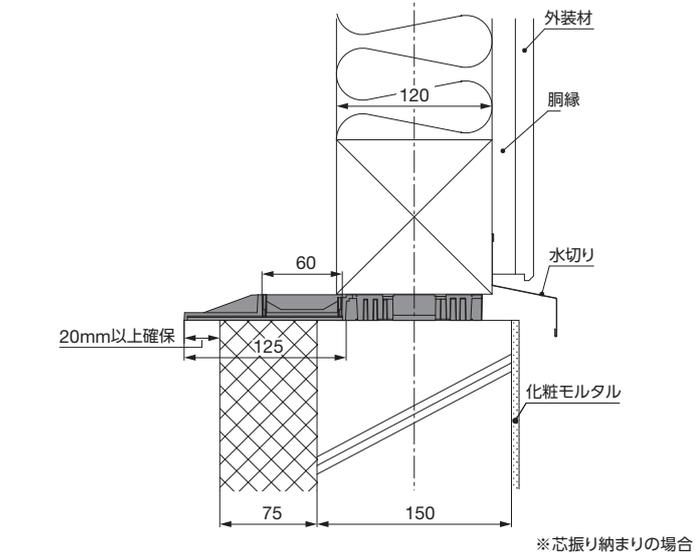
基礎外張断熱納まり図(土台105角, 壁外張断熱)



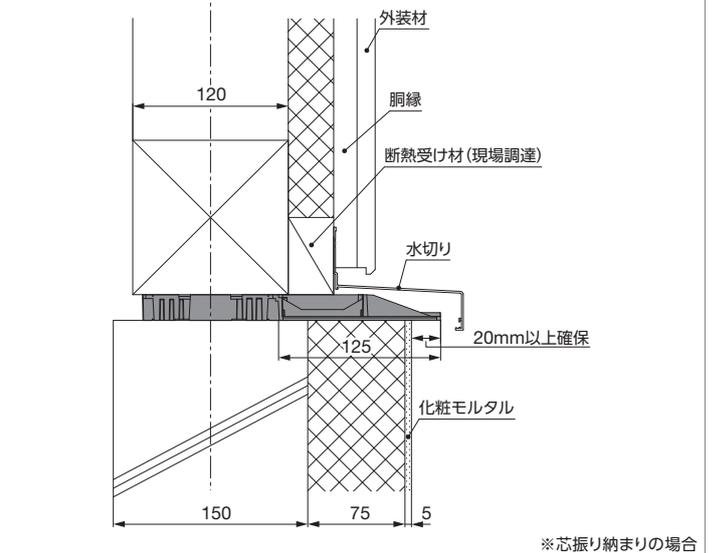
基礎外張断熱納まり図(土台105角, 壁充填断熱)



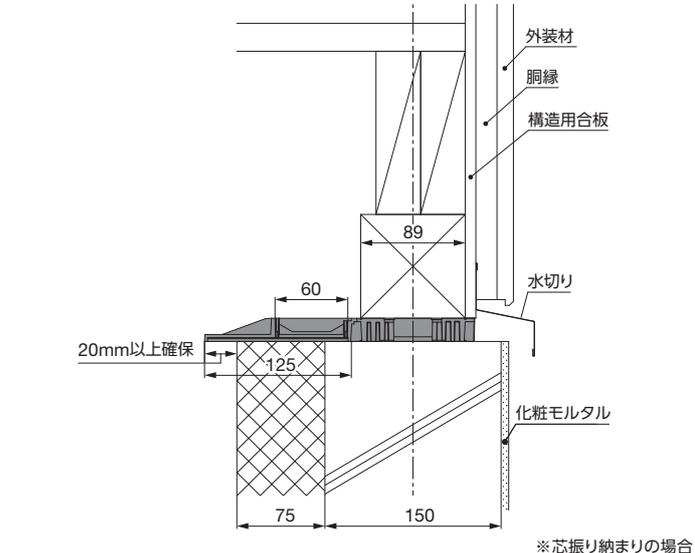
基礎内張断熱納まり図(土台120角, 壁充填断熱)



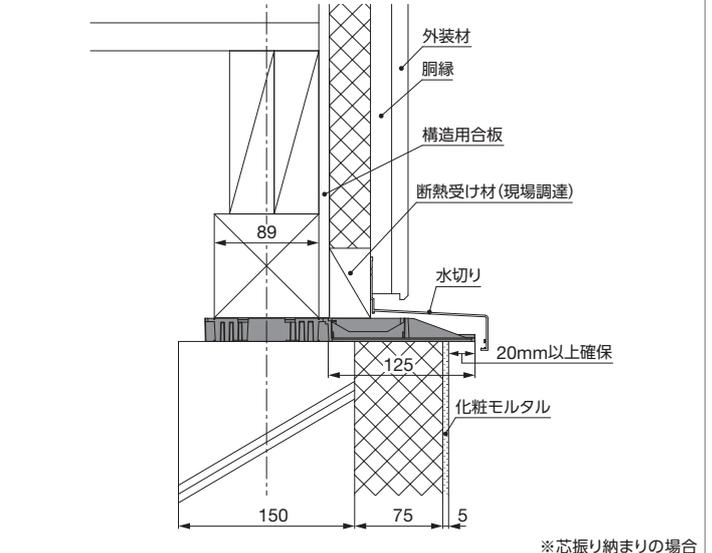
基礎外張断熱納まり図(土台120角, 壁外張断熱)



基礎内張断熱納まり図(土台404角(204), 壁充填断熱)



基礎外張断熱納まり図(土台404角(204), 壁外張断熱)

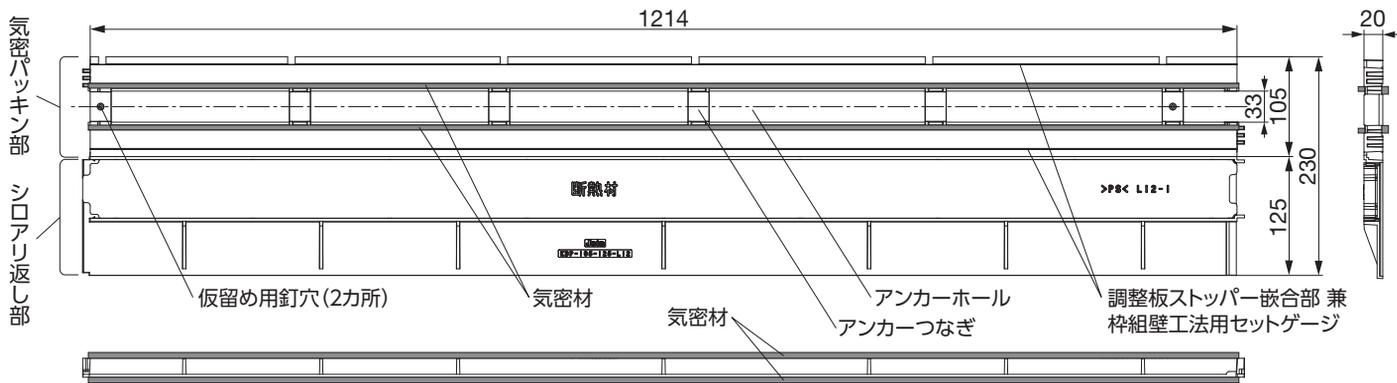


■軸組工法・枠組壁工法共、土台と気密パッキン部の芯を一致させることが原則です。

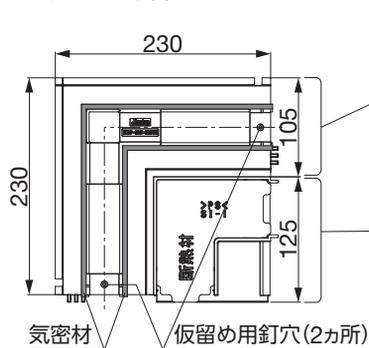
■シロアリの侵入を抑制するために本製品のシロアリ返し部の端部から化粧モルタル等の化粧面または断熱材まで20mm以上確保してください。

製品寸法図 (単位: mm)

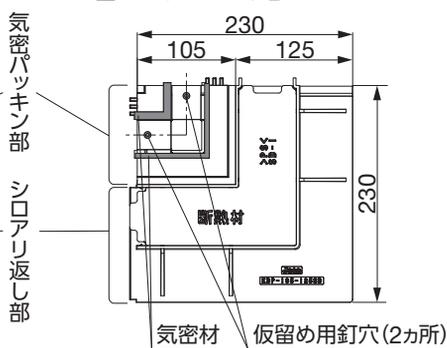
■ シロアリ返し付き断熱気密パッキン



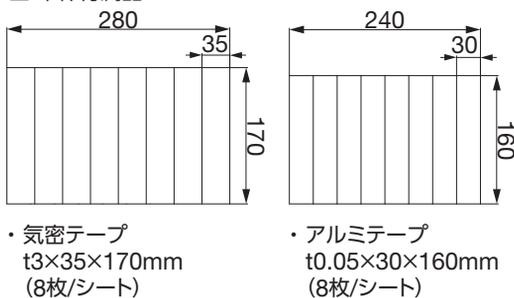
■ コーナーパーツA



■ コーナーパーツB



■ 本体付属品

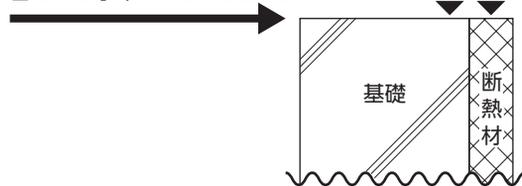


施工の前に

本製品の施工の前に必ず下記の内容をご確認ください。

- 基礎天端と断熱材の天端に水、木くずなどの異物がないこと。
- 基礎天端と断熱材の天端が水平(平滑)であること。
- 基礎天端と断熱材の天端の高さが同じであること。
- 調整板を使用する場合は、上部に2枚(最大3mm)までを厳守してください。
※120mm土台の場合、調整板を奥まで差し込むように注意してください。
- T字・十字の施工はP7を施工前にご確認ください。

基礎と断熱の天端の高さを合わせて水平にしてください。

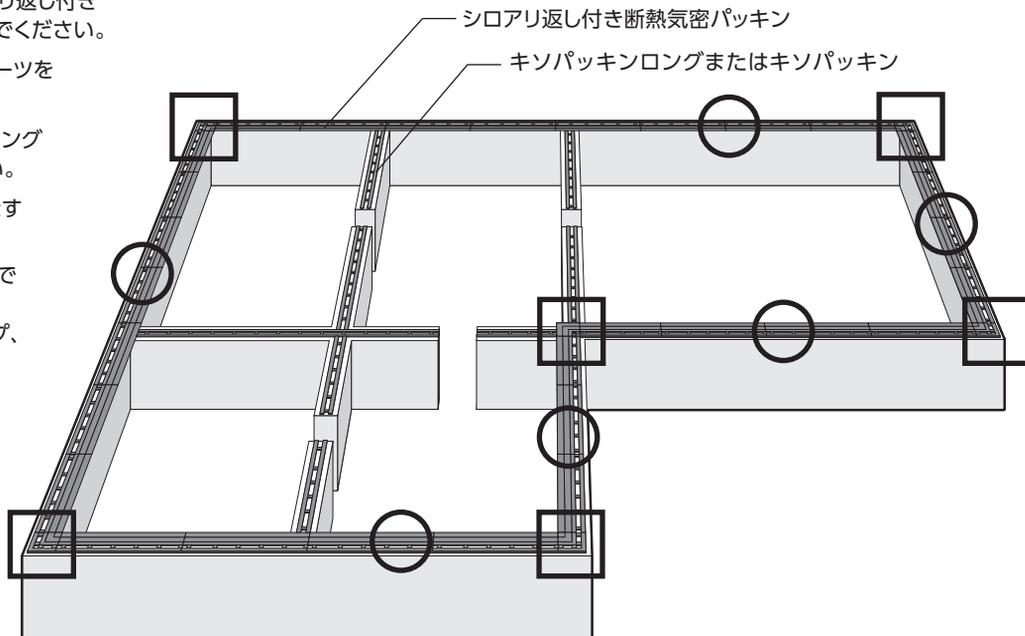


施工のルール

- 気密性を要する基礎天端外周にシロアリ返し付き断熱気密パッキンを隙間なく敷き込んでください。
- 外周の入隅、出隅部分にはコーナーパーツを使用してください。
- 基礎内周の立上りには、キソパッキンロングまたはキソパッキンを使用してください。
- 本製品の加工が必要な箇所は、P5に示す内容に従ってください。
- コーナーパーツとコーナーパーツの間で本体のカットが1か所必要となります。本体カット部分断面には付属の気密テープ、裏面にはアルミテープの貼り付けが必要となります。

□ : コーナーパーツ設置箇所

○ : ジョイント加工必要箇所

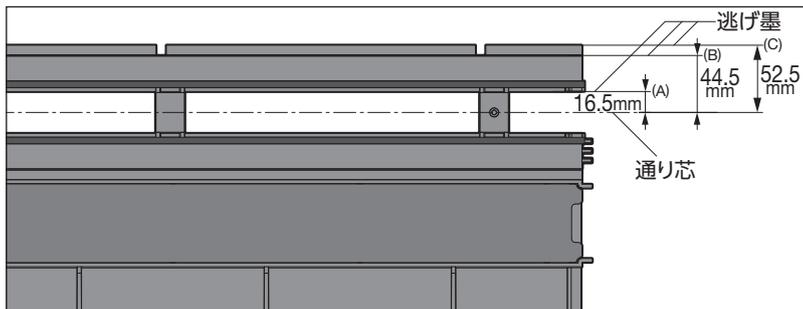


施工手順 (直線部)

1 逃げ墨を打つ

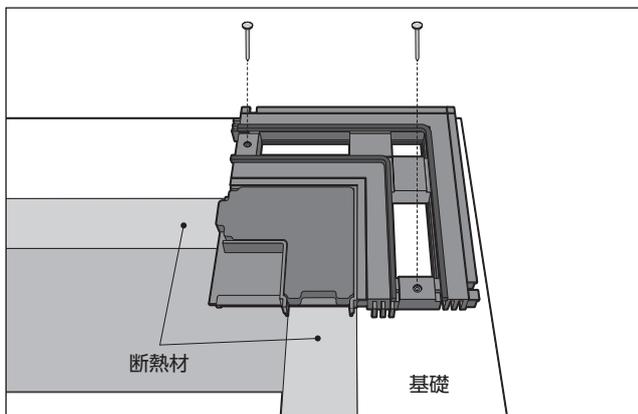
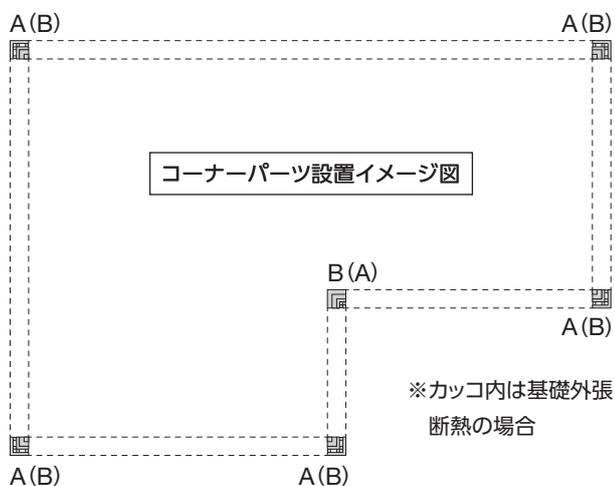
●(A)～(C)いずれかの逃げ墨を打ってください。

- (A) 通り芯より**16.5mm**の逃げ墨を打ち、気密パッキン部のアンカーホールの内側に合わせる。
- (B) 通り芯より**44.5mm**の逃げ墨を打ち、気密パッキン部のセットゲージに合わせる。
- (C) 通り芯より**52.5mm**の逃げ墨を打ち、気密パッキン部のシロアリ返しと反対側の端部に合わせる。



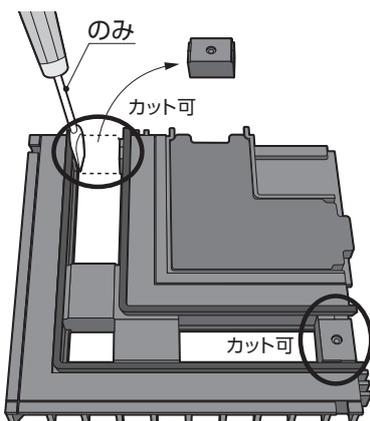
2 起点となるコーナパーツの固定

●基礎入隅もしくは出隅にコーナパーツをコンクリート釘(現場調達)を用いて固定し、起点とします。※全てのコーナパーツを最初に設置します。
※コンクリート釘推奨サイズ：#12(約φ2.7)×25mm

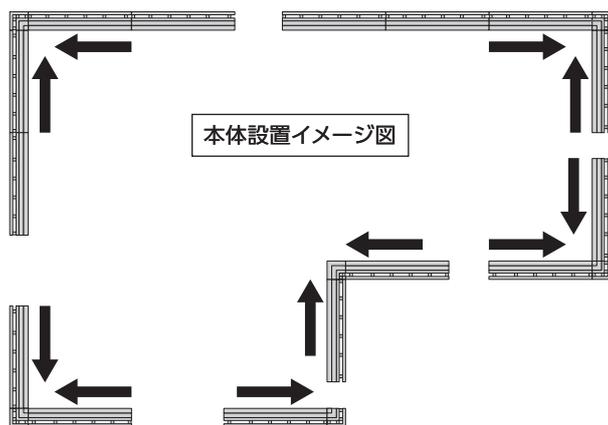


3 アンカーつなぎがアンカーボルトなどに干渉する場合

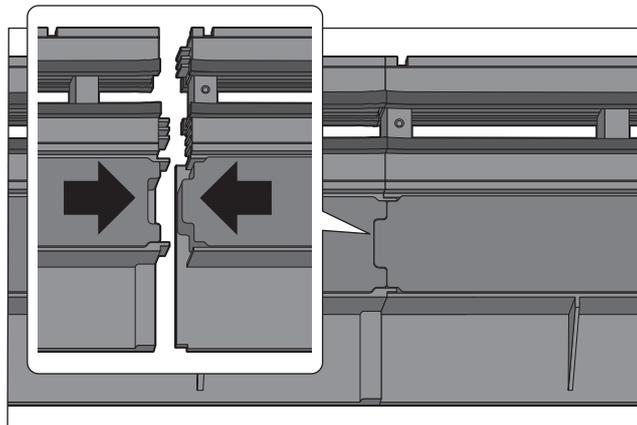
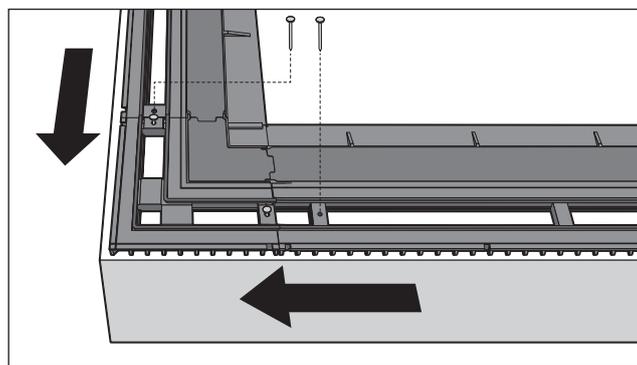
●本製品の本体及びコーナパーツのアンカーつなぎがアンカーボルトなどに干渉する際は、のみなどでアンカーつなぎを切り落とすことが可能です。その際、気密材を破損させないように注意してください。



4 本体をコーナパーツに嵌合させる



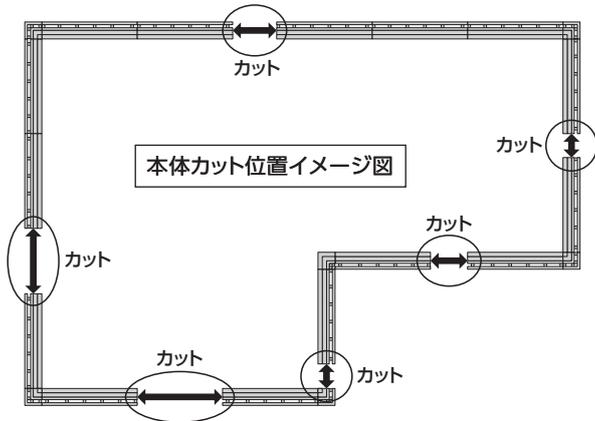
●本体をコーナパーツに隙間のないようしっかりと嵌合させて繋げます。一本につき一箇所を固定(仮留め)しておくで嵌合させる際のずれを防止することができます



5 本体をカットし寸法を調整する

●基礎の一边毎に一箇所、寸法調整のため、本体のカットが必要になります。

1 カット寸法の算出



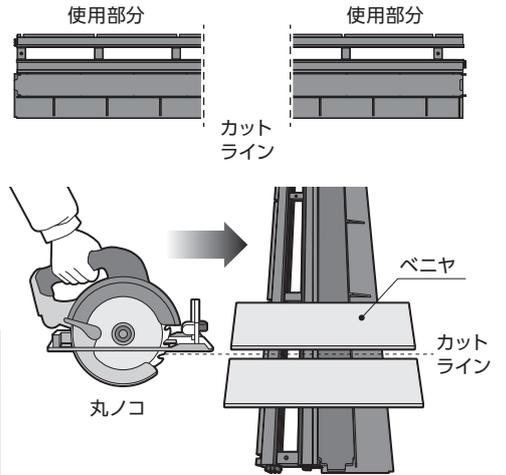
2 本体の端部同士をカットして長さを調整してください。

※本体の長さ調節の際は、アンカーつなぎが1つ以上確保される長さで切断してください。

3 カットの際に合板を活用いただくと気密材を痛めずにカットできます。

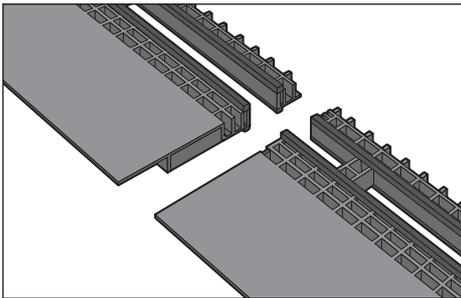
⚠ 注意

本体の長さをカットする際、カット部分の気密部材がはがれないようご注意ください。

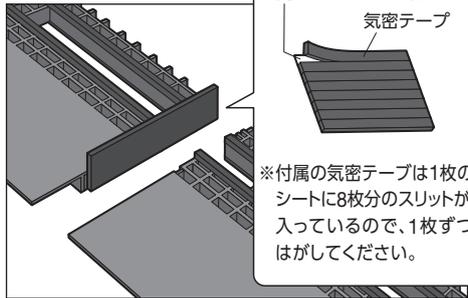


6 本体カット部分の補強

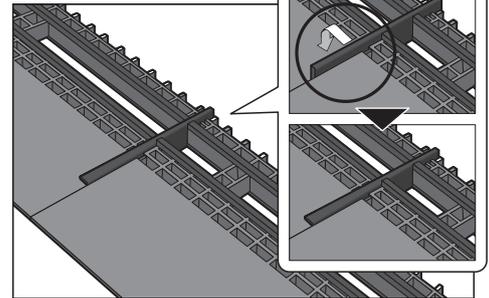
1 5-2でカットしたものを準備し裏側に向けてください。



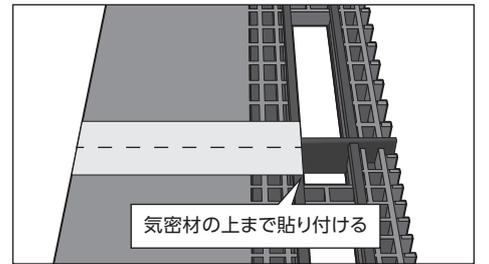
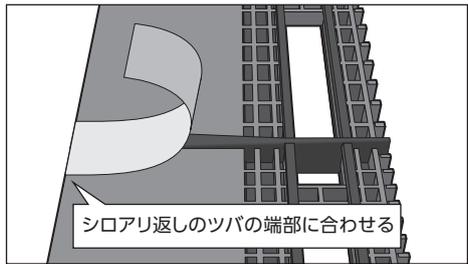
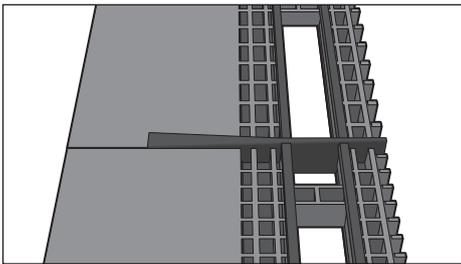
2 カットした本体に同梱の気密テープを貼り付けてください。



3 はみ出した気密テープは、折り返して本体に貼り付けてください。



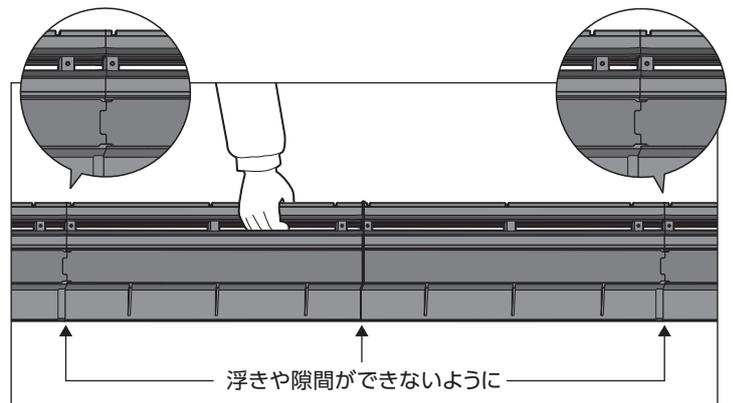
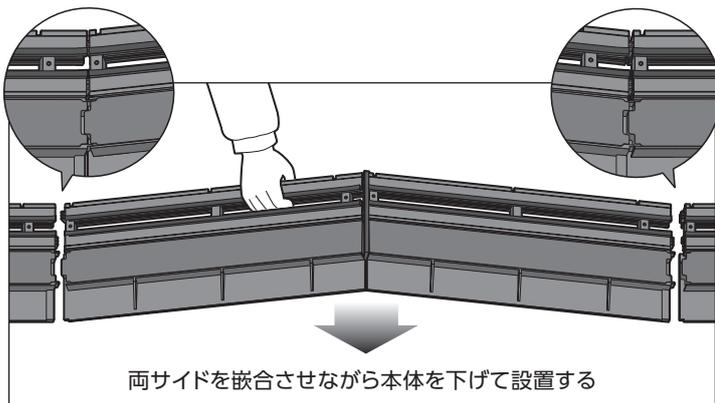
4 本体の裏側から同梱のアルミテープをカット部の中心に合わせて貼り付けてください。



5 長さを調整した本体を設置する際は、本体を軽く持ち上げ、少し曲げた状態*から本体を下げて設置してください。その際、両サイドのジョイント部分がしっかり嵌合するようにしてください。

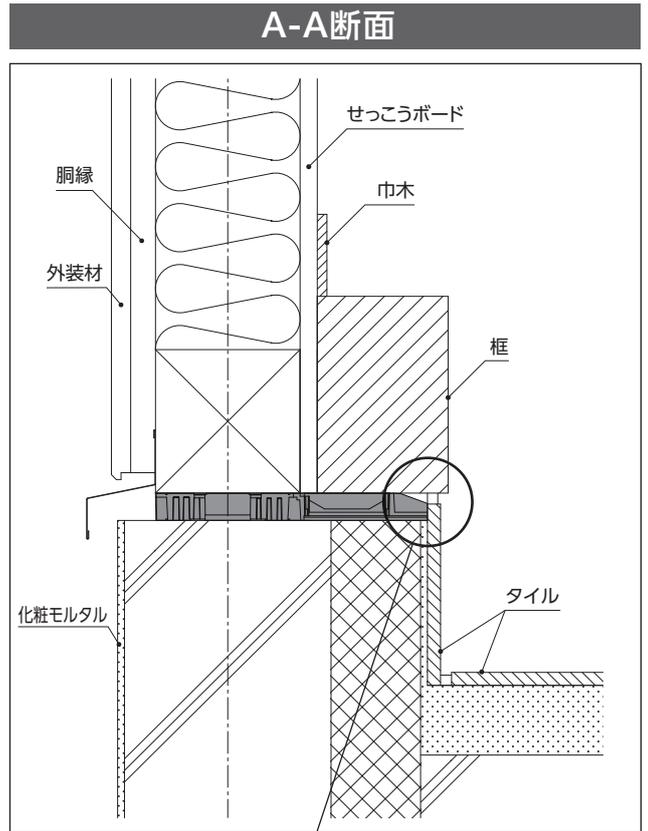
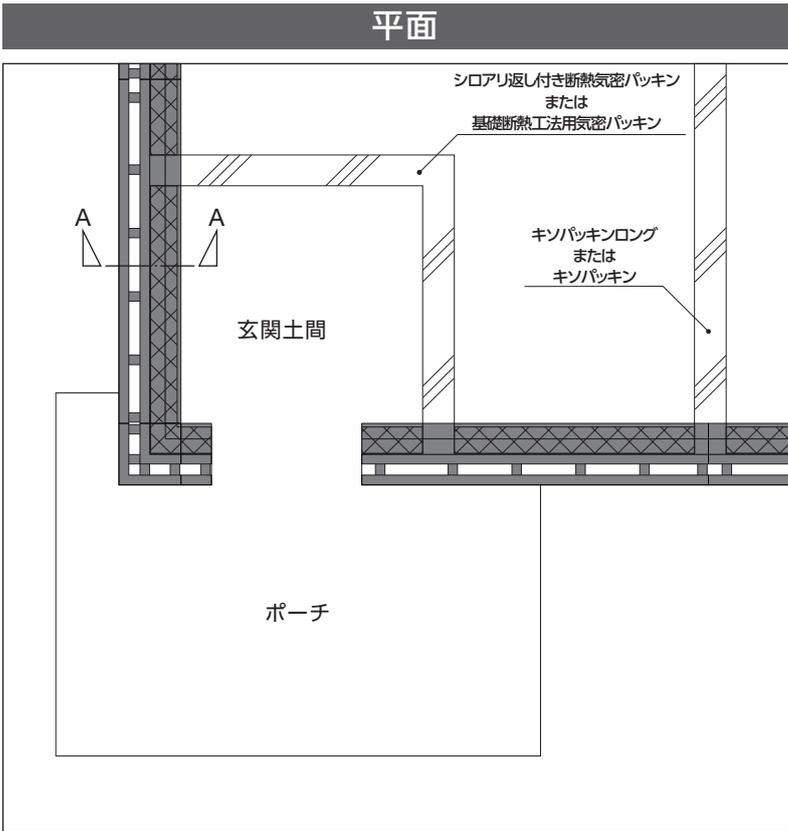
※カット部分を曲げすぎるとアルミテープが破損する恐れがありますのでご注意ください。

※本体の浮きや嵌合部分の隙間ができないように注意してください。



玄関部断熱材とシロアリ返し付き断熱気密パッキンの納まりについて

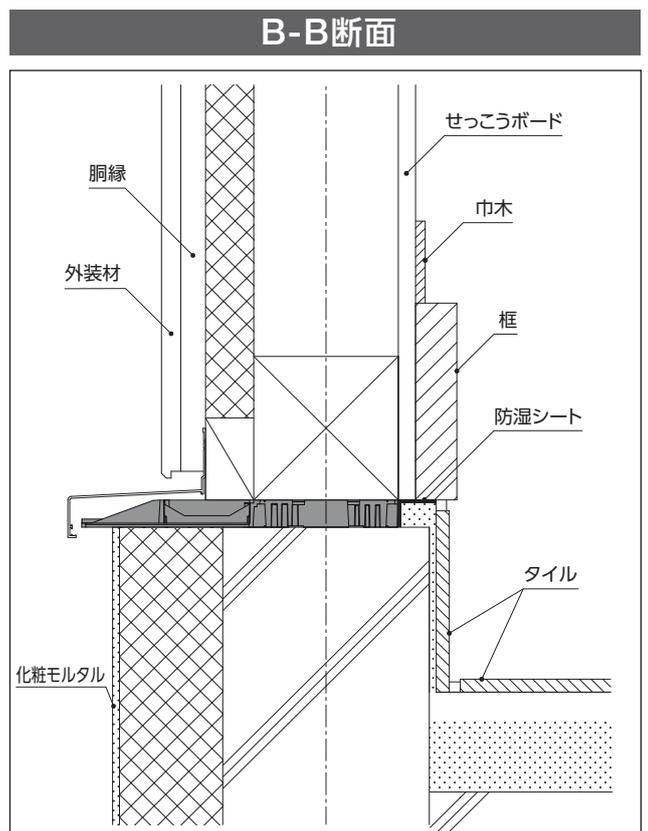
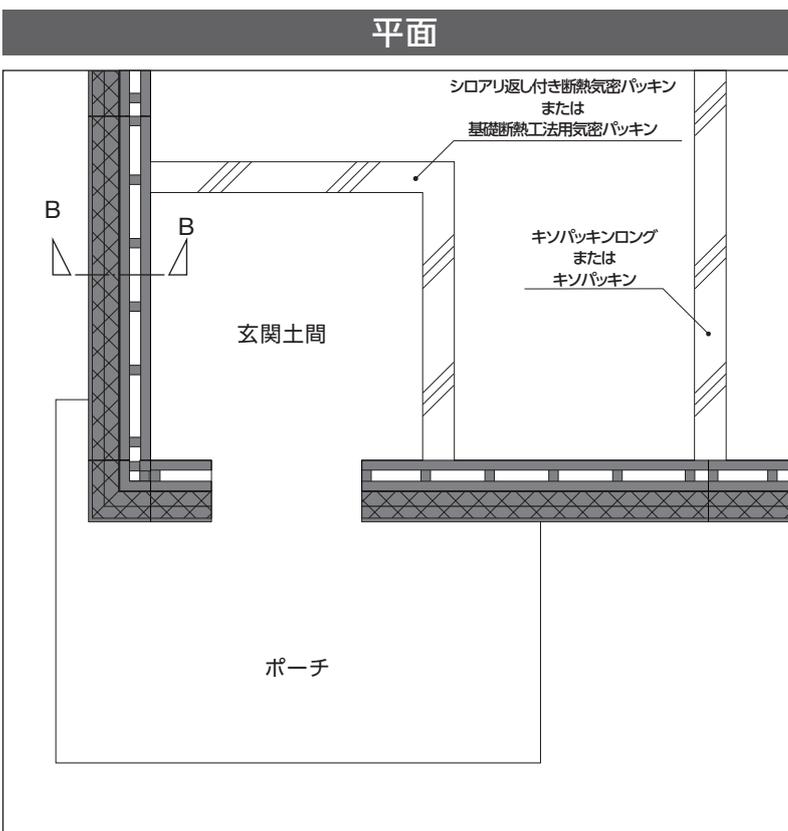
■基礎内張断熱の場合



⚠ 注意

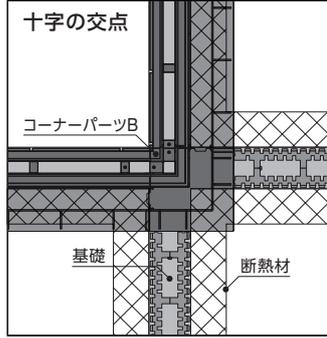
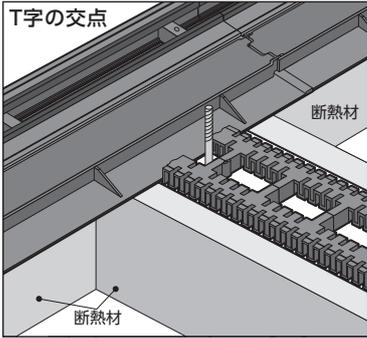
シロアリ返し部分は極力カットせずに納めてください。
仕上げ材と干渉する場合には、必要に応じてカットしてください。
その際、仕上げ材までの最小カットに留めてください。
例) タイル仕上げ：タイル裏面位置までシロアリ返し部分を残してください。

■基礎外張断熱の場合

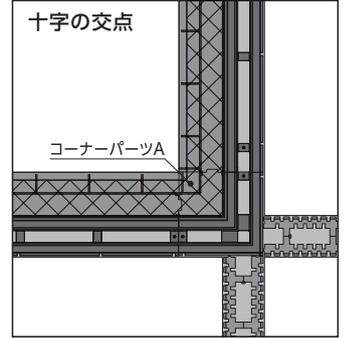
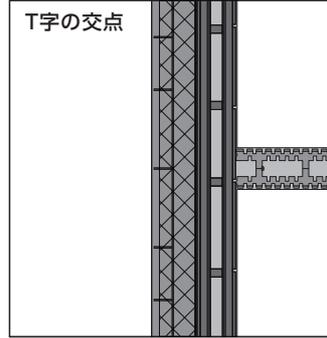


断熱ラインとT字・十字部分の取り合いについて

■基礎内張断熱 納まり図



■基礎外張断熱 納まり図

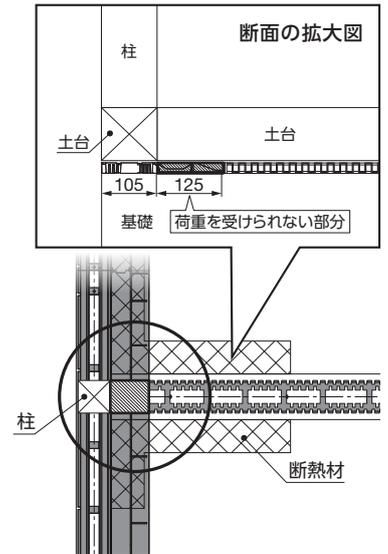
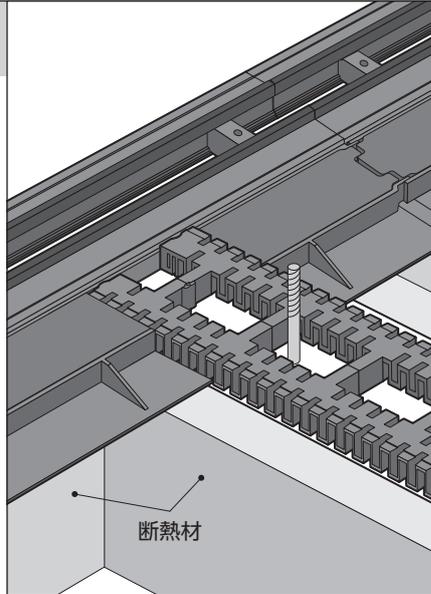


⚠ 注意 (基礎内張断熱の場合)

下記条件の場合には“断熱材・シロアリ返し部分”をカットし、キソパッキンロングまたはキソパッキンの設置を優先させて納めてください。

- 柱や補強柱の設置位置がシロアリ返し部分に掛かってしまう場合
- 耐力壁や枠組み工法などの荷重伝達範囲がシロアリ返し部分に掛かってしまう場合
- アンカーボルトがシロアリ返し部分に掛かってしまう場合
- 土台の継手に仕口加工などが無い場合
- 玄関まわりの基礎断熱工法用気密パッキン使用時

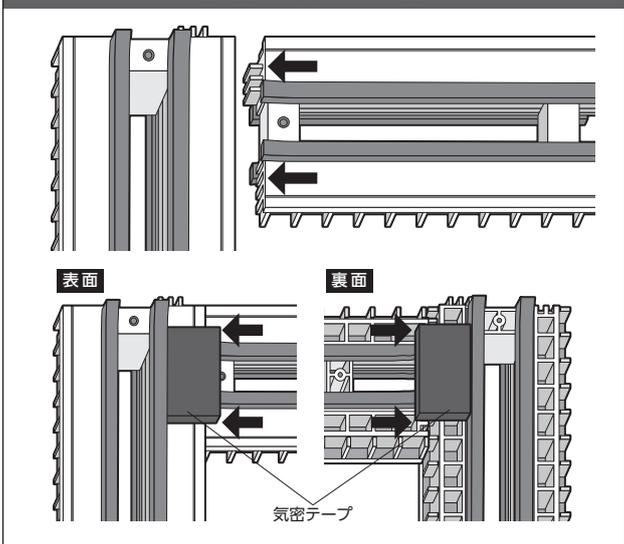
※ 欠き込んだ断熱部位は発泡ウレタン材で断熱補強をおこなってください。



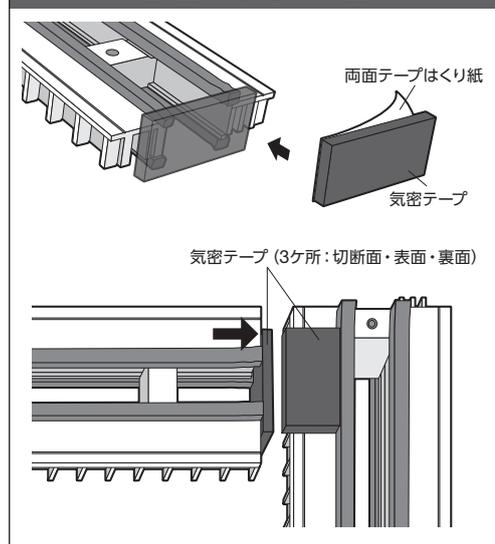
玄関まわりの気密処理について

- 基礎外周には『シロアリ返し付き断熱気密パッキン』を使用いただき、基礎内周には『シロアリ返し付き断熱気密パッキン』または『基礎断熱工法用気密パッキン』をご使用ください。施工については下記内容にご注意ください。
- 気密性を連続させるために、取り合う部分の表裏に必ず付属の気密テープを貼り付けてください。
- 基礎内張断熱仕様で、上記の欠き込みをおこなった部分では、基礎断熱工法用気密パッキンのジョイント部分を取り除き、付属の気密テープを小口部分へ貼り付けて潰れるまで押しつけてください。
※ 基礎外周に対して気密材が連続してつながるように敷き込んでください。

嵌合が可能な場合



嵌合が不可の場合

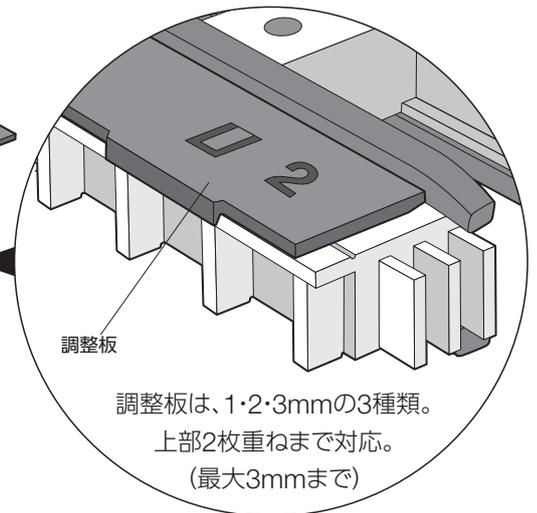
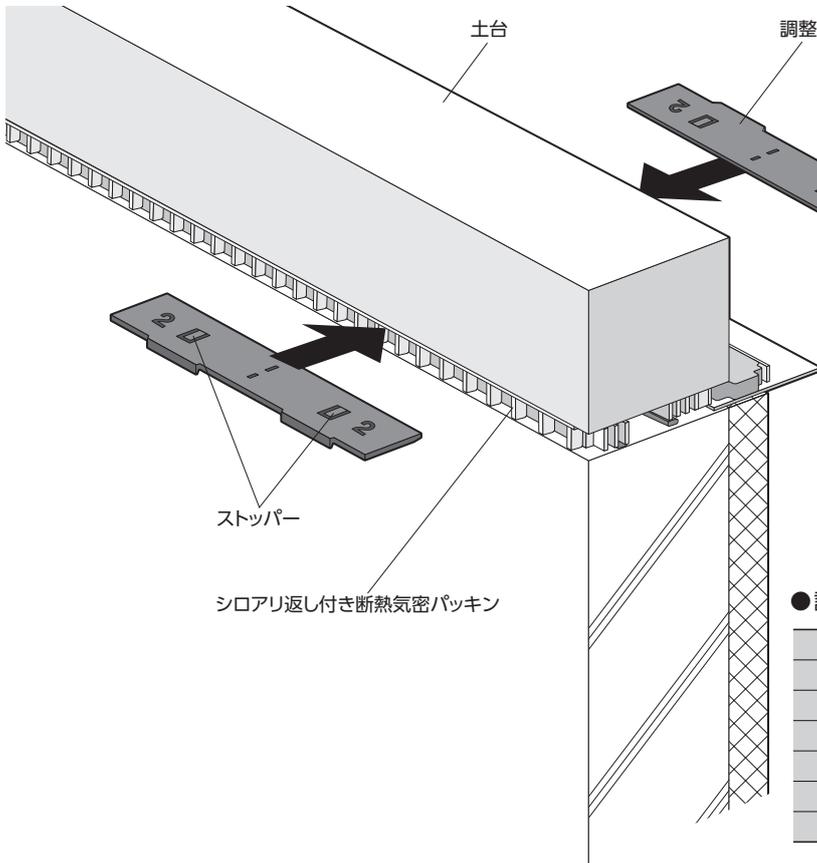


※ 図は『基礎断熱工法用気密パッキン』の施工図です。そのため、シロアリ返し部分を省略した内容となっております。取り合いについては、必要に応じて最小限の欠き込みを行ってください。

土台との間に隙間が生じた場合

- 土台設置後、土台とシロアリ返し付き断熱気密パッキンの間に隙間が生じる箇所には、別売品の調整板を使用してください。
(土台の不陸発生防止)
- 調整板は2枚で1セット(水平レベル)です。
※調整板の重ね枚数は2枚まで(最大3mmまで)を厳守してください。
※120mm土台の場合、調整板を奥まで差し込むように注意してください。

- 調整板の取り付けは、シロアリ返し付き断熱気密パッキンの両サイド(基礎の内と外)からシロアリ返し付き断熱気密パッキンの上(土台との隙間)に差し込み、手で入らない場合は、ハンマーなどで軽く叩き込んで完全に挿入してください。
※調整板を奥まで差し込んで、シロアリ返し付き断熱気密パッキンの表面のストッパー嵌合部(溝部)へ、ストッパーを嵌合させてセットしてください。



●調整板(別売品)

品名	気密パッキン105mm幅用調整板		
品番	KP-SL1051	KP-SL1052	KP-SL1053
色	ブラック		
寸法	240×28.5mm		
材質	PP		
厚さ	1mm	2mm	3mm
梱包	左右30セット/ケース		

製品仕様

●本体

品名	シロアリ返し付き断熱気密パッキン
品番	KDP-105-125-L12
土台	105角・120角・404(204)用
寸法	230×1,214×20mm
材質	JC (ポリオレフィン樹脂+炭酸カルシウム) 気密材: EPDM<発泡ゴム> 断熱材: EPS
梱包	8本/ケース
付属品	気密テープ 1シート/ケース (縦に8枚分のスリットが入っています) アルミテープ 1シート/ケース (縦に8枚分のスリットが入っています)

●役物(別売品)

品名	コーナーパーツA	コーナーパーツB
品番	KDP-105-125SI	KDP-105-125SD
土台	105角・120角・404(204)用	
寸法	230×230×20mm	
材質	JC (ポリオレフィン樹脂+炭酸カルシウム) 気密材: EPDM<発泡ゴム> 断熱材: EPS	
梱包	3個/ケース	

